

SSKR

CIL東大和通信

第12号

編集 NPO法人 自立生活センター・東大和
東京都東大和市南街1-22-6 シティコート南街1F
TEL : 042-567-2622 FAX : 042-567-2912
EMAIL : cil-ymt@violin.ocn.ne.jp
発行所 東京都世田谷区砧6-26-21
障害者団体定期刊行物協会 定価 100円



ずいぶんご無沙汰の通信になってしまいました・・・。

障害者自立支援法が始まり、煩雑な事務と請求と報酬引き下げによる人材確保の困難と・・・誰にとってもいいこと無し1年間があつという間に過ぎていってしまいました。

でも！そんなときこそ初心に戻って、CILらしさを取り戻さなければ！！

ちょうどタイミングよく、DPI 世界会議がお隣韓国で開催されるということで、6年ぶりにTRY風が吹いたわけです。ひゅるりん～☆

そんなわけで、今回のCIL東大和通信は、2007 ASIA TRY in KOREA特集です♪

目次：

TRYとは.....	p 2
2007 ASIA TRY in KOREAとは.....	p 2
こんなコース歩きました！.....	p 3
こんなTシャツ売りました！.....	p 3
東京組TRY会計収支報告.....	p 4
TRY報告会・お礼参り実施！.....	p 4
参加利用者さん&スタッフの感想.....	p 5
自立仲間誕生！.....	p 12

TRYとは:

TRYとは、1986年に始まり、兵庫県西宮市のCIL(自立生活センター)「メインストリーム協会」が続けてきた、鉄道のバリアフリー化を訴える車椅子での野宿旅！イベントのことです。今までに、大阪ー東京間、旭川ー札幌、仙台ー盛岡、高松ー松山、鹿児島ー福岡、福岡ー東京間など全国を車椅子で歩きました。そして、2001年の夏、TRYは海を越えて韓国へ。日本メンバー・韓国メンバーが一丸となって「韓日TRY2001」と題し、釜山ーソウル間を1ヶ月間かけて散歩。ワールドカップの競技場、鉄道の駅などをバリアフリーを訴えながら歩き、その活動は韓国の鉄道、障害者観をもゆるがしました。TRYの目的は歩くことで社会に障害者の存在と現状を訴え、仲間と一緒に旅をし、自分たちも楽しみながら社会を変えていこうとすることです。

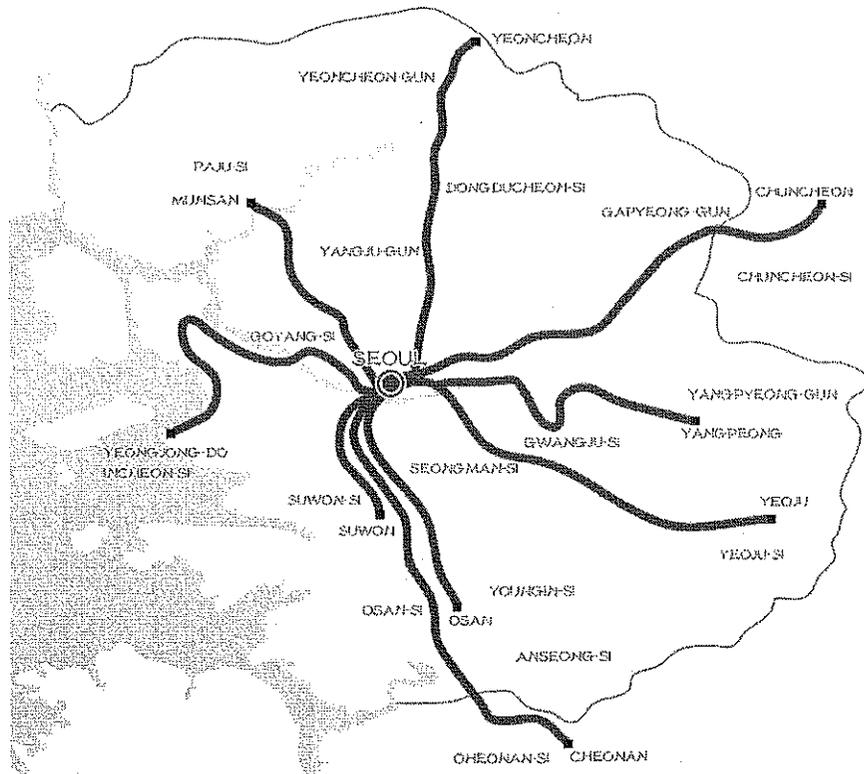
2007 ASIA TRY in KOREAとは

今回私たちはバリアフリーだけではなく、さらに大きく「障害者が社会の中で生きる」ということを考えました。日本では支援費制度や障害者自立支援法が出来て、障害者が社会に出て、自立して暮らしていくという一定の制度はできました(まだまだ課題は山積みだけど!)。また、国連においては昨年12月に障害者権利条約が採択され、世界的に障害者が社会の中で暮らすということはあたりまえという認識になっています。しかし、日本ではそれらはまだ社会全体ではあまり知られておらず、誰もが自立して暮らしていける社会の実現には時間がかかります。さらに他のアジアの国々では障害者を取り巻く環境がまだ成熟しておらず、社会の中で暮らしていくのは日本以上に難しい状況にあります。このような状況を変えるために私たちは歩きました。

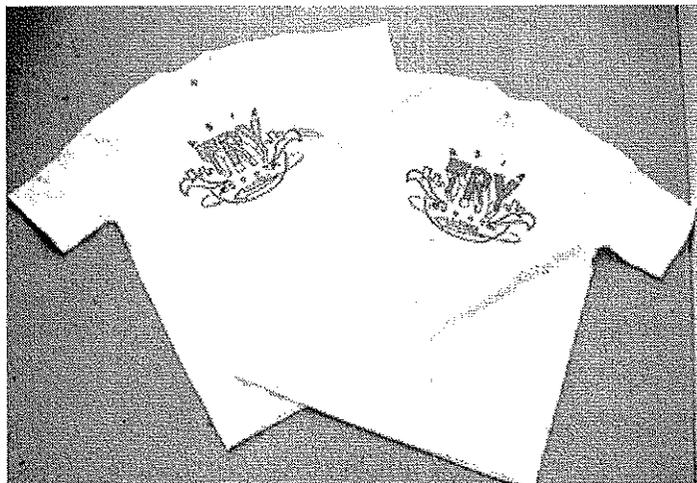
今年9月5日(水)～8日(土)にかけて、韓国でDPI(Disabled Peoples' International)世界会議が開催され、世界中の障害者が集まり、国際的な障害者問題について話し合われました。プレイベントとして多くの人に「社会で自立して暮らしていきたい」という思いを伝えることができたと思います。

今回アジアの11カ国(日本・韓国・台湾・カンボジア・インドネシア・フィリピン・マレーシア・インド・ネパール・パキスタン・カザフスタン)から障害者とその仲間約200人が集まり、アジアの障害者問題を一緒に考えて歩きました。アジア各国から歩けない人や、目の見えない人や、耳の聞こえない人や、言葉が話せない人など、様々な障害を持つ人が参加しました。(健常メンバーでも、いろんな国が集まりすぎてコミュニケーション障害が生じてたけど!)東京組としては、人工呼吸器ユーザ3名を含む26名の参加がありました！その期間中ミニイベントとか、野宿を共にし、汗をかきながらソウルまでの道のりを楽しみました。灼熱の太陽の下、国を超え、障害を越え、共に笑い共に泣き、新しい出会いをつくり、友情を深めて、このTRYを通してアジアの中に障害者の大きなネットワーク作りの第1歩を踏み出せたと思います。アジアの国々で一人でも多くの障害者が社会の中で自立して暮らしていける社会になることを願っています。

こんなコースを歩きました!



こんなTシャツ売りました!



東京組TRY会計報告!

収入

募金総額(街頭募金は15回)	636,566円
カンパ	327,489円
TRYTシャツ売上げ	652,000円
その他	192円
収入合計	1,616,247円

支出

準備活動費・	1,114,463円
航空券代等	

ご協力
ありがとうございました!

ありがとうございます!

残高:501,784円☆

今回余ったお金は、2009年に開催される“2009 ASIA TRY in 台湾”の資金とし、関西本部にて管理させていただきたいと思えます。

TRY報告会・お礼参り実施!

10月25日(木)には、7月に中止になったバーベキュー大会を兼ね、TRY参加者のほか、お世話になった方々や利用者さんをお招きしTRY報告会を実施しました!当日は、スタッフ含め約30名の方たちに参加していただきました。事務所内にてお配りした報告書に沿って、TRYの趣旨説明や会計

報告などを行い、その後はTRY参加者から感想などが発表されました。

午後は事務所前の駐車場にてバーベキュー☆この時期にしては暖かく、外でご飯を食べるには気持ちの良い気候。スタッフが持ち寄った七輪も登場し、できたての美味しいご飯を食べながら和気あいあいと報告会は終了しました♪

そして、11月24日(土)には立川駅北口のペデス

トリアンデッキにてTRY参加者が集合し、TRY中に撮影した写真を貼り付けたパネルを持ち、興味を持ってくれた道行く人たちに報告書を配りました。この場所では、約3ヶ月間、ほぼ毎週のように募金活動を実施し、たくさんの方たちに募金をしていただきました。そんな中、「募金をしてもらえばなしで何の報告も出来ないのは心苦しい。協力してくれた人たちになんらかの形で報告が出来ないものが・・・」という声から決まったのが今回のお礼参りです。そし



(6)

今年の1月。

事務所内の会議で今年の年間スケジュールを立てていた時のことです。

「今年の8月～9月にかけて、6年前のRe:TRYということで韓国野宿旅をします。」とトライ実行委員のE氏。

続けて、「景子ちゃん、行こうね？ていうか行くだからね！」の言葉。

…嫌な予感がしていました。

このままではこの無謀なイベントに連れて行かれる。

そう思いました。

それまで私は海外に行ったことも無く、アウトドアは苦手だったので、自分の人生で野宿などあり得ないと思っていました。その後の準備などを進めていく中で、トライの趣旨に共感興味を持ったものの、自分がどこまで付いていけるのか自信が無く、初めの数ヶ月は参加を誘われる度にあやふやな返事を繰り返していました。



実際、韓国に行くまで期待以上に不安が大きかったのですが、終わってみて最初に思ったこと、それは「行って良かった」ということです。

雨の中を凍えながら歩いたこと、一日 22km 歩いて疲れ果てたこと、トライ中の全ての出来事を「仲間が頑張っているから自分も頑張ろう」という気持ちで乗り切ることができ、すべて忘れられない思い出となっています。

トライが終了し、自分の心境で明らかに変化したと思うことは「好奇心」です。

今までの自分は、挑戦する前に妥協してしまうことが多く、いつの間にか、新しいことを知ろうとしたり、興味を持ったことを追求しようとする気持ちが少なくなっていました。

それが、仲間たちと協力し最後まで乗り切れたことで自信がつき、たくさんの人たちとの出会いに刺激を受け、色々なことに「もっと知りたい！自分も挑戦してみたい！」という好奇心が沸くようになりました。

今回のトライは、自分を試すという意味合いも強かったです。でも、自分が参加しトライで得たものを社会にどう還元できるのかを考えた時に、それはこの活動をたくさんの人に伝えていくことだと思いました。

何事にも挑戦しようとする気持ちは持ちつつ、でもトライに参加する前の不安で一杯だった気持ちも忘れることなく、今回の自分の体験が今後自立を目指している人の励みに少しでもなれば…と思います。



最後に、様々な形で協力してくださった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。

小林景子

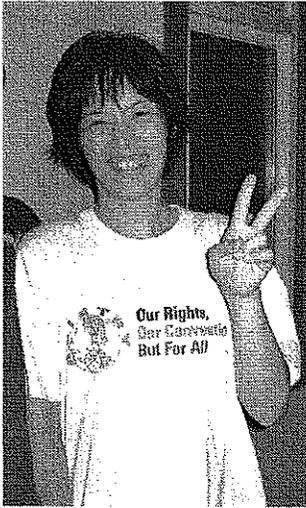


2007 ASIA TRYに参加して

石井 真紀

この事務所に来なかったら、決して経験する事がなかっただろうと思うTRY。

海外で野宿？一生かかってもない事だろう…そう思って私の中で参加することは、ほぼ即決でした。募金も声を出すまでは取ずかしかったけど、出してしまうとストレス発散(?)にもなり、そこのあなたに言ってるんだよ！！って感じで、大声を出していました。



暑くても募金をしてくれる人がいると、またがんばろう！という気持ちになりました。事前の心配も行ってみれば、それ程でもなくて、シャワーがなかろうが、寝る時間が少なからうが普段の生活ではありえない事も、どうってことなかったです。(言い過ぎか?)

インチョンコースは、天気に恵まれ、ごはんもおいしかったです。

わりと順調に進んだけど最後に、おーっTRYか！？って、事もあり個人的には、その雰囲気ワクワクしちゃったけれど(他人事？じゃないのに…)、中心メンバーのみなさん、お疲れ様でした。泣きそうでした。感動の瞬間でしたね。フーッってみんなで抱き合うのとかいいなあって思ったり…勢いでやっちゃえ～とはいかなかったけれど、あこがれます…そういうの。コースのみんなとも、もう少し一緒にいたかったなあ。

そして田淵さん、ゴールしてからが本当のTRY だったでしょうか？お役

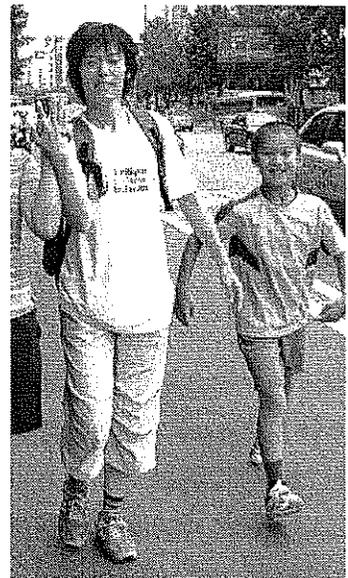
に立てなくて本当に申し訳ありませんでした。韓国語が話せたら…と強く思った瞬間でした。国内でも自分から進んで話しかける方ではないのに、韓国語がわからないから、ますます無口になってしまいました…がそれでも韓国語が通じると、行った国の言葉で話しが出来るっていいなあって思いました。

もっとその国の言葉が話せたらなあ、聴覚障害の人と手話で話せたらなあ…と、感じているだけで、そのための一歩が踏み出せないでいるのですが、きっと世界が違うんじゃないかと思います。

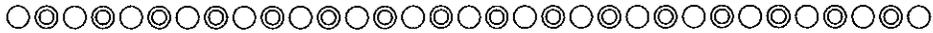
荷物は伴走車に積んだけど、本当はこんなに楽じゃないだろうなあ、とか野宿したかったなあ、とか最後の最後に飛行機が落ちて死ぬのか…という恐怖など、色々ありました。

今回、子供にも経験させたいと思い、TRY に誘いましたが連れて来なければ良かったかなあ…と思ったりする事もありました。でも終わってみて、やっぱり連れて行って良かったという気持ちです。

日に日に仲良く遊び始める子供達を見て、その適応力にいいなあ～と思いました。一生に一度の事だと思っていたけど、また参加するかも…いや、参加したいです。



最後に、参加したくても自分の気持ちだけでは、できなかつたと思います。留守を守ってくれた家族に感謝です、ありがとう。



TRY感想

田淵 規子

半年をかけて準備を進めてきた2007 AISA TRY が終了しました。

思えば、2年前の夏、我がセンターで初めての外泊プログラムを愛知万博に合わせて企画、このプログラムに参加してから、めきめきと変わっていき始めたK君らを見るにつけ、あの企画は大成功だったね！と自画自賛していた私たちは、次はやるんだったら海外もん…！と密かに思いは海を越えていました。



今年、DPI世界会議が韓国で開かれる年でもあり、それに合わせて、ソウルCIL、西宮のメインストリーム協会と東大和でトライをやる事がとんとん拍子で決まっていきました。



こんなヒョッコCILで海外プログラム…無事に成功したらセンターの歴史を華々しく飾るだろう…もっとも私たちの自信にもなるだろう…私個人の思いとしては、人生の中で野宿なんて、やろうとも出来るとも思っ
てなかったこと、こんな機会でもなければまずいな…と、初めは怖いもの見たさのような期待感で胸が膨らんでいました。

しかし、東大和の利用者さんだけでなく、この企画に多くの障害の仲間が興味を持ち参加の輪が広がってくると、手放しに面白がってばかりいられなくなってきました。

参加する9名の障害者のうち、ベンチレーターユーザーが3名も！！

センタースタッフでトライ東京代表はユーザーとは言え、世界を駆け回るパワフルな人！海外も野宿も(?)手馴れたものでしょうが、海外初！の人も多く、それに今年の夏は酷暑という表現がピッタリの暑い夏だったので、韓国だって暑いに決まってるわ…そんな炎天下に歩くなんて…みんな大丈夫だろうかと…と段々と不安が膨らんできました。

海外初体験の人にしてみれば飛行機に乗ることだけで精一杯だろうし、一週間も日本を離れ、ましてや非日常をなんとか無事に帰ってこれればそれでよし！と考えていたので、宿泊場所やトイレの事など、結構ギリギリまでのんびりムードだった韓国にせっせとメールで情報提供のお願いしたりしてました。今にしてみれば参加者の不安を取り除く為と言いつつも、実は自分の不安もかき消す作業だったのかもかもしれませんけど…。

それは、これまでのトライの本来の目的とはかけ離れた事であったのでしょ。センターの中でも、トライに対する思いの違いなど様々な意見の衝突や考えの食い違いなどもあり、トライに向けて心を一つにしているのだろうかと思案直前まで悩んだりもしました。



しかし、そんな紆余曲折にもめげず、トライを歩ききり、疲れ果ててはいたものの、行って良かった！次のトライがあったら又参加したいよ！との感想を聞いた時、これまでの困難な出来事はどこかへ飛んでいってしまうくらい嬉しくて、こみ上げてくるものを堪えることができませんでした。

今回のトライは一週間と短いものでしたが、歩くという行動は外に向けたアピールではなく、むしろ自分自身の目標に向かっていくことであり、チャレンジであったこと。苦楽を共にした仲間との連帯感を含めて、ゴールした時の達成感と充実感、安堵の気持ちは参加者全員が味わった感覚だったに違いありません・・・

11カ国200人にも及ぶ仲間たちとの出会いも忘れられません。私を含めひとりひとりの心に刻まれ、これからのかけがえのない糧となり、来るべき困難に立ち向かうときはパワーとなり、私たちを守ってくれるでしょう……。

私たちがこうして、無事トライを終えることが出来たのも、何より東大和のスタッフがいてくれたからこそ。募金やTシャツ販売など、様々な形でたくさんの協力と応援があったからこそ。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



ASIA TRY 2007 を終えて

海老原 宏美

「日韓TRY2001」同窓会企画から発展した今回の 2007 ASIA TRY in KOREA。結局規模はアジア各国にまで広がった大規模なイベント事業として動き出しました。

今回、東京メンバー26名のうち、私を含め2人以外は全員TRY初経験でした。まずは、その全員が無事に帰国できたことにほっとしています。気管切開している人やマスク式呼吸機使用者が、海外でソフト野宿する前例は、まずなかったでしょう。他にも、初海外だった人もたくさんいて、みんな、文字通り、このTRYにTRYしたことに對して、拍手を送りたいと思います。

代表という立場でありながらも、みんなが一丸となって取り組まなければTRYは成功しない訳で、どうやって全員で足並みを揃え、ペースを作っていくか、ということに随分頭を悩ませました。。

「資金を作りつつ、TRYを周囲の人に認知してもらうため、そして、自分の中でモチベーションをあげながらTRY参加への意味を自分の言葉で伝えていけるようになるために、TRYTシャツをひとり50枚、買い取って売りましょう。」と言った時のメンバーからの大反発。企業まわりをしても、TRYの業績や効果

というものが形に残っていない、ということでもなかなか賛同を得られない現実。国や地域を越えた打ち合わせの際の、価値観の違いで些細なことでもめる時間。

しかし、私が今回のTRYで一番考えさせられたのは「介助者」という存在でした。

今までのTRYは、とにかくみんなで助け合う、がポリシー。┌

誰もが地域の中で地域の人たちとふれあひながら生活できる環境作りを訴えよう、そのためにはまず、TRYメンバーの中でお互いを良く知り合おう、という理念があるわけです。自分専属の介助者にばかり介助をお願いしていたら、周囲の人に本当に自分の障害を含めた生活を分かってもらえるのか??ということです。だから、「不安だから慣れた人に“介助者”としてTRYに参加してもらおう」とか「介助に慣れた人を同じコースに」という考えには到底賛成できませんでした。



でも、「それはダメです。」と言い切ってしまったら「TRYには参加できません」という人が続出しそうでした。きっと20年前からTRYをやってきた元祖メンバーの方達に言わせれば、「そんな程度の気持ちの人には参加してもらわなくていい」と言われるかもしれません。でも、私は、最初の条件で参加できる人を限ってしまうのではなく、まずはいろんな人に経験してほしかった。一度経験さえすれば絶対みんなTRYの意義を分かってくれるはず!と信じていたし、そういうTRYにしたい!と想っていたからです。

今回は先述の通り、かなり重度の障害の人もいて、他人がいきなり介助してびったりうまくいくのはかなり難しく、誰もが介助できるか、と言うと限界があった。かと言って「じゃ、誰とでもやっていける人しかTRYに参加できないのか」と言ったらそんなはずはない訳で。どうしても最低限の「介助者」は必要でした。

でも…

「介助」をするために一緒に韓国に行く人が、私たちの過酷なTRYについてこられるのか。一緒に盛り上げられるのか。私たちはその「介助者」とどう関わればいいのか。一緒に歩く人にはみんな、ある程度TRYへのモチベーションを高めて楽しみながら参加してほしいけど「介助者」にそれを求めるのはいけないのか。…と、私の中での不安は尽きませんでした。

障害者は、「介助という労働」に対する対価を支払うことで「介助者」とある程度対等な立場を確立しました。

でも、TRYは真逆。敢えて無償。

なのに、普段より強く感じる連帯感と対等感。なぜでしょう。

2回のTRYを通じて感じたのは、無償の方が、本気で言いたいことを言い合えるのではないかということです。お金を介している、どこかで「障害者に雇われている」感が存在し、言いたいことを飲み込んでしまうことがあります。しかし、無償で付き合うときは、例えば疲れきっているところに何か頼まれれば「今疲れてるから動きたくない」と言えたり、障害者に依存されそうな時に「たまには他の人に声かけて

よ」と思い切って突き放したりできます。

障害者メンバーだって、手のあいている人／体力に余裕のある人を探したり、タイミングを見計らったり、どうしても疲れきっている人にお断りしないといけない時には少しでも気を遣いながら必要最低限の介助を考えたりと、それなりに、メンバー達とうまい関係を継続させるために頭と心を遣います。さらには、自分には何ができるんだろう、と自分なりの役割を考えたりし始める。

そして全部が自己責任。

それって、ある意味「対等」ではないでしょうか。

「介助者」「利用者」として対等なのではなく、「人」として対等だと思つたのです。そしてそういう状況は、ヘルパー制度がある程度確立してしまった今、なかなか経験できません。

その貴重な場に「介助者」を入れていくということに対する不安。

理想と現実の狭間でぐるぐると頭をめぐる葛藤。恐らく、TRYを一度でも経験していたからこそ感じた、そんな諸々の葛藤にずっと押しつぶされそうな半年間でした。

しかし、実際は、そんなに懸念するほどのことでもありませんでした。専従介助者という立場での参加者も、同じように盛り上がってくれて、コースメンバーにとってはかけがえのない存在でした。中には、TRYがどういうイベントなのか、ようやく理解できたのはゴール前日、という人もいましたが、終わってしまう前にTRYを理解してくれたことが私にとっては、とても嬉しかった…。

一方で、障害者メンバーの中には、普段の「介助者」を使う感覚を拭いきれなかった人も多かったようです。自分から積極的に動いていかない。慣れた人にしか介助を頼まない。他の人を知ろう、という意識が低い…。

…そういう意味でも、やっぱり1週間のTRYでは限界があるんだなあ、と感じました。社会が変われば変わるほど、TRYの理念を貫いていくことが難しくなっていくのかもしれない。



「介助者」という立場が悪いものとは思いません。障害を持っている人が安定した生活を送るためには絶対に必要なシステムです。しかし最近では単に制度上、便宜的に割り振られた「介助者」「利用者」という立場が、本来の「人」としての役割・生き甲斐を見失わせている気がしてならないのです。「すべての人が“自分の役割”を担える社会にしたい！」健全でも障害があっても、お互いにその気持ちがあって初めて、その上にひとつの役割として「介助」が成り立つのだと思うのです。その根底にある気持ちだけは、絶対に変えてはいけな



いと思うのです。そして、それを伝え続け、再確認できるもっとも効果のある方法がTRYだと、信じています。TRYさいこ～！

お知らせ：

TRYにご協力いただいた方に、2007 ASIA TRY in KOREA東京組報告書を差し上げております。ご希望の方はご連絡いただければ、お送りします。またその他の方には1部100円にて販売しております☆

自立仲間誕生！

東大和に自立仲間がひとり誕生しました☆

気管切開をして人工呼吸器を使う仲間です。自己紹介を書いていただきました！

「自立」

小日向 一弘 (こびなた かずひろ)



私の自立したいなという気持ちが芽生えたのは、大学四年生の秋でした。そも

そも、福祉の仕事がしたいな、じゃあ福祉系の大学に入ろうという、なんとも単純な動機で入学しました。中高と養護学校で過ごした僕にとっては、障害のない人たちとの出会いは、まさに未知との遭遇でした。学校生活自体は、そこで出来た友人たちによるボランティアでサポートしてもらいました。少し悪いなと気が引けてもいましたが、協力となんとか気持ちの折り合いをつけながら過ごしていきました。

そんな中、来るべき時は来ました。三期、四期生時の実習や就職活動です。僕も他の障害のない人と同じように就職活動を始めました。就

職活動中に、相談や面接では、「こんな重度の人は…、ちょっとうちでは無理です」と門前払いされることもありました。賛否両論あるでしょうが、障害があるかないかはとても大きいことなんだと痛感しました。しばらく焦ってみたり、諦めてみたり、なんでなんだと怒ってみたり、努力の仕方も良くわからないという状態

が続きまして。そういう方向に考えることしか出来なかったときは、気持ちが沈み、だんだんと色々なことに対して、やる気がなくなっていました。やがて、順調そうに見える友人と会うのも辛くなってしまいました。

「なんとなく」で大学に入ってしまったことももちろんですが、「障害」というものにこのときに初めて、本格的にぶつかったのかもしれない。だんだん何をどうしたいのか分からなくなり、何がしたいのかよりも何が「出来る」のかということに悩んでいました。でも、それは違っていただと思います。限られてしまうかもしれないけれど、一歩目は「～がしたい」というのが大切だと今は思うので。

そんなときにC I Lのインターンシップというのを知り、参加してみてもC I Lの言う自立自体にも興味を持ち始めました。C I L東大和を知ったのもそのときでした。

望む、望まないに関わらず、自分で自分の生き方を決めることが出来なかった障害者にとって、自己決定をして、責任を引き受けていくという考えは、なかなか、大変だし、難しいことだと思っていました。しかし、この考え方は僕にとって、非常に衝撃的なものでした。多少、自立等の理念については本やインターネットで見て、知っていたつもりですが、丁度これからどうやって生きていこうか、真剣に考えている最中の僕にとっては。

僕の頭の中は、障害のない人に、いかに近づけるかということではいっぱいでした。でも、C I Lに飛び込んでみて、人は一人ひとり、障害、性別、人種など、いろいろな意味で違うのだから、生き方も違っていいと思うようになっていきました。それは、仕事をするとはどういうことかにつながっているんだと思います。それは、結局のところ自己決定をして、責任を引き受けていくということで、その上で人のため、社会のため、そして何より自分のために何かを行っていくことなんじゃないかと思っています、そして、僕がそれを叶えていきたいのは、同じように悩んでいる人と一緒に悩んで、進んで行けるC I L東大和なんだと思っています。

すぐにめげてしまう僕ですが、そんな僕に対してC I Lのスタッフの皆さんが待ちの姿勢をとり、自分からやるんだということを気づかせてくれたおかげで、自立生活が始められています。まだまだ、始めたばかりで、自立の「じ」から「つ」までが分かるまで時間がかかりますが、しっかり進んでいこうと思っています。みなさん、よろしくお願いします。

かいひのうにゅう ねが
〈会費納入のお願い〉

えぬびーおーぼーじん じりつせいかつ ひがしやまと みなさま かいひ うんえいしきん
NPO法人 自立生活センター・東大和は皆様の会費が運営資金となつ
ております。今後も障害を持っていても自分らしい地域生活を送るために
ひつよう さまざま ていきょう きょうりょく ねが
必要な様々なサポートを提供していくためご協力をお願いいたします。



こじんかいいん えん ぐち
個人会員:3,000円/1口
さんじょかいいん えん ぐち
賛助会員:3,000円/1口
だんたいかいいん えん ぐち
団体会員:10,000円/1口

うけつけじかん
〈受付時間〉

へいじつ
平日9:00~18:00

* 緊急連絡はいつでもつながります *

NPO法人 自立生活センター・東大和

〒207-0014

とうきょうとひがしやまとしなんがい なんがい
東京都東大和市南街1-22-6 シティコート南街1F

TEL:042-567-2622

FAX:042-567-2912

EMAIL:cil-ymt@violin.ocn.ne.jp



後記:

あっという間に今年が終わります。今年はTRYで半分燃え尽きてしまい、人材不足も
追い討ちをかけ、毎年恒例の「仮装クリスマス会」も開催できませんでした。来年はど
んな年にしようかな。どんな壁をも楽しみに変えていけるぼがていぶさはキープしていき
たいです。